

京交山岳部報

'75 No.272

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

6月号

〔第1040回例会〕

御在所岳から雨乞岳

(R)

日 時 6月6日(金) 7.00 京都駅中央集合
コ ー ス 京都一草津一武平峠…御在所岳…雨乞岳…杉峠…甲津畑一永源寺一八日市
一京都
担 当 者 横大路 上島和彦 (TEL 601-9391) 1/5万図「御在所山」

〔第1041回例会〕

金糞岳と白倉

(T)

日 時 6月8日(日) 6.00 九条車庫出発
コ ー ス 京都一長浜一高山一深谷…金糞岳…白倉△1271…深谷一往路帰洛
担 当 者 錦林 大槻雅弘 (TEL 378) 申込み〆切 4日(水)
備 考 マイカー利用のため必ず連絡のこと。1/5万図「長浜」「横山」

〔第1042回例会〕

岩登りとスキヤキ

金 毘 羅

(T・R)

日 時 6月22日(日) 9.00 錦林車庫出発
担 当 者 錦林 大槻雅弘 横大路 岡本義弘 (611-2076)
備 考 夏山に向けて、岩登り練習とスキヤキをします。スキヤキのみの参加も
歓迎します。費用 約700円(現地精算) 申込み〆切18日(集会)

〔第1043回例会〕

三国ヶ岳(近・美・越)

(T)

日 時 6月24日(火) 早朝出発予定
コ ー ス 京都一木之本一尾羽梨…三国ヶ岳…往路下山 1/5万図「敦賀」「横山」
担 当 者 本局 宮後正樹 (TEL 251) 申込み〆切 18日(集会)

・ 今 月 の 集 会 ・

- 日 時 6月18日 (水) 午後7時から 下鴨寮
- 議 題 1. 例会 (161040~1041) 部員動静 報告
2. 7月例会、集会 (烏丸) について
3. ディスカッション「夏山」
4. 連絡事項 その他

—当番 本局支部—



雪 崩

宮 後 正 樹

今冬は雪が多かったためか、心配していた雪崩による遭難、被害が多かった。2月早々から五竜の遠見スキー場では、幅50m、長さ1.5Km、深い所で厚さ5mにも及ぶという大表層なだれが、ゲレンデをおそいす本のリフト、キャビンが押しつぶされた。幸い早朝で悪天候だったため、スキーヤーはおらず死傷者はなかったが、このスキー場は、谷あいを切り開いて作られた「地獄の壁」という斜度40度のコースを売りものにしており、以前から雪崩の危険性があるとして指摘をうけていた欠陥スキー場だったというから恐ろしいものである。

また神城スキー場では雪崩のためリフトの支柱が曲ったり、栗巣野スキー場でも歎崎山を目指していた登山パーティが突然の表層雪崩にまき込まれるという事故があった。そのほか八ヶ岳では横岳西壁の大同心ルンゼで表層雪崩にあい、女性を含むる人パーティが押し流されて死亡した。

3月の飛び石連休に起きた中ア、宝剣岳での雪崩による大量遭難では捜索に向った仲間の1人が転落死亡するという残念な事故もあった。

雪崩といえば、鹿島槍を目指した今冬われわれの冬山合宿も折からの降雪とラッセル、それに表層雪崩の危険にさらされて、遂に高千穂平から引き返すという結果に終わったが、当時の気象状況、地形、さらにはパーティの精神的、体力的状態から判断してリーダーの下山命令は勇氣ある退却の大英断であったと思う。

雪の多かったのは日本だけではない。今年のヒマラヤも雪が多く、遠征各国隊ともスタートから積

雪と雪崩のため難航した。

まず東京都岳連隊はダウラギリ主峰の第1キャンプで隊員2人を含む5人を失い、ついでアンナブルナ主峰のオーストリア隊が寝込みを襲われ、ローツェ南壁のイタリア隊もベースキャンプをやられたほかプモリのフランス隊と雪崩遭難が相次いだ。

またマナスルII峰（P 29 7835m）を目指していた兵庫岳連隊（前田浩隊長ほか11人）も直撃は避けられたものの雪崩による爆風のためキャンプを倒され、装備の一部を失って、遂に7,200m付近で登頂を断念している。

それにしても6,500mの第2キャンプを襲った雪崩のため13人の重軽傷者を出しながらも、その痛手を見事克服して、遂に世界の最高峰を極めた日本女子エベレスト登山隊の壮挙に敬意と祝福を送るものである。シェルパのアンツェリンと一緒に8,848mの頂上に立った田部井登はん隊長はシェルパの2人と共に遭難当時は重体と報じられていただけに夢のように本当によくぞやっとなんと、その斗志、体力、精神力に頭が下がる思いである。

雪崩遭難の暗いニュースをふっ飛ばす明るい快挙であった。

南アルプス

黒法師岳

翠峰

年毎に体力の衰えるのを憶える年代に達した私は、宿泊施設や交通の不便な南アルプスの山々を少しでも元気なうちに片づけようと毎年例会を出して有志と登山を続けて来たのである。この黒法師山も一等三角点のある山として以前から計画していたのであるが、どのガイドブックにも登路がなく地図にもない難儀な山であった。

一昨年末に有志を集めて結成した一等三角点研究会は、全国の一等三角点の征覇を目指し、相互に一等三角点の情報（登路その他）を交換して目的を達する為の組織である。この会の本年度の研究例会としてこの山を選んだのである。

登路を南アのガイドブックの著者である山本明三郎氏に手紙を出してお尋ねした処、この山に詳しい日本山岳会員の水野氏を介して南赤石林道よりの登路を教えて頂いた。

3月20日金谷駅に集合の計画で、19日の夜京都駅に北野の坂田君、台川君、一等三角点研究会の松浦氏と合し、急行銀河に乗車。浜松で普通の初発に乗換へ、大井鉄の初発に連絡する金谷駅で元気な関東副支部長の滝沢君と落合った。

下泉で下車、滝沢君の手配でタクシー大型が待っていた。すぐに乗込んで大井川を下泉橋で渡り上長尾に至り南赤石林道をひた走りに走った。大礼山の肩を越し、蕎麦粒山と板取山の鞍部である山犬の段の2Km程手前の地点で小さな崩壊があったので、そこで車を返し林道を歩くことになった。このあたりから残雪が多くなった。山犬の段には立派な休憩小屋が建っている。水場がないの

が欠点だが美しい新築の広い小屋だった。この日は天候が悪く、雪が降って来て前途の苦勞を予想させられた。山腹をまく平坦な林道を10 Km 余り歩いた地点に空小屋を見付け、たき物も沢山あるのでこゝをテント場に定めた。昼食后夕刻迄地勢の偵察その他に時を過し、明日の登山に備えた。

3月21日
身のひきしまる朝の寒気を吸い込んで一同出発。上西平沢の支沢にかゝる二の橋の地点から林道をすて伐採の山道をとる。梯子の続く急崖の峻路を登り1572 mの地点から出ている支尾根を登って山腹を巻く道に達し奥に進む。この辺りは日当りがよく積雪は少かったが、伐採の進んでいない1825 mから出ている支尾根に出合う辺りから雪が俄然多くなった。一同はこの支尾根をつめて稜線に出ることにした。

私が先頭に立ちアイゼンをきかして獣の足跡を辿り、遂に稜線に達し西側の河谷や山嶺を見渡せるようになった。稜線には道があり、雪もしまっていて歩き易い。急坂はピッケルの支持で登った。風が強く、此の日北ア其の他で遭難事故が多発したのは御承知の通り。戻小山1868m(青笹山)に登り一息ついて又も縦走。二重稜線の地形の所を通り倒木の陰でコーヒーを沸し昼食をとり休憩後、一段と積雪も多くなった 稜線を登りバラ段の頭(2010 m)に達したのは午後2時であった。此所は日本最南端の二千m峰で下は急坂で上西平沢と日蔭沢のコルに急峻に落込んでいる。その先に黒法師岳が聳立っている。往復2時間はかゝるコースである。御老体の松浦さんは此所で待っているとこのことで、三角点を掘出す為を持って来たスコップで雪洞を掘って待っていて頂き、4名で本峰へアタック。急坂を用心してピッケルとアイゼンを利用して下りコルに達し、又急坂をあえぎ乍ら登り遂に山頂の林に達した。黒法師岳の標識のある木の下で一行万歳三称して乾杯。感既無量のものがあったが、待っている人の事を考えて直ちに下山。

青笹山を越して次のピーク辺りで日が暮れ、浜松の市街の夜景が美しく見えた。ヘッドランプをつけてひたすら用心して踏跡を辿って下山。林道に下ったのが20時頃で、小屋に戻ったのは22時であった。

翌22日、快晴で東に富士山が美しい。林道を辿って山犬の段に行き、途中で行合った営林署の車に帰路の便乗を頼み、休憩小屋で昼食后蕎麦粒山をピストンして下山。営林署の車に一同便乗して林道を下り上長尾のガソリンスタンド前で下車。家へ電話したところ母が急性肺炎を併発して死亡し、葬式も昨日済ませたとこのことで私は腰がへなへなと抜ける思いをした。橋を渡って対岸の田野口に行き大井川鉄道に乗り金谷で乗換え帰京した。

葬儀に際しては多数の焼香や御香典を頂き紙上より厚くお礼申上げる次第で、全く親不孝な次第です。

参加者 北野 坂田、台川 五条 坂井

コース・タイム	3月19日	23.50	京都駅	20日	4.10~5.10	浜松	5.56~5.57					
	金谷	6.43~6.48	下泉	7.30~7.35	林道下車	8.50~9.00	山犬の段	11.25				
	小屋(泊)	21日	6.10	出発	7.30~7.35	二の橋	11.40~11.50	戻小山△				
					14.00~14.05	バラ谷の頭	15.00~15.15	黒法師岳△	20.15	林道	22.00	小屋着
					22日	9.30	出発	12.10	山犬の段	14.00~14.20	ソムギ山△	14.45

～15.00 山犬の段 16.15 上長尾 16.30～17.33 田野口 18.33～19.19 金谷
20.07～20.19 浜松 22.23 京都駅

押立山と東光寺山・明神山

田 中 忠 久

名神の行き帰りに、かなりのボリュームをもって迫ってくる山、これが押立山である。地図(1/5万図 御在所山)を拡げてみると、南へ角井峠を隔て、東光寺山、明神山が連なっている。この3山に登ろうと、種々ルートを検討したが、交通の便等から、南から北へ縦走することにした。

永源寺の紅葉橋北でバスを降りる。立派な鳥居をくぐり、高野神社左手の山道をゆっくりと登って行った。溝状になった道は、尾根近くなると消滅してヤブこぎになったが、尾根に登ると、かなりしっかりした道がついていた。

展望の良い尾根道であったが、東側を巻くようになったので、左手の踏み跡を辿って再び尾根に出た。間もなく明神山々頂△684.9である。展望の良い山頂であった。とくに、綿向山から雨乞岳、御在所岳へと続く稜線や、前山(△789.6・△990.5)の新緑がすばらしかった。

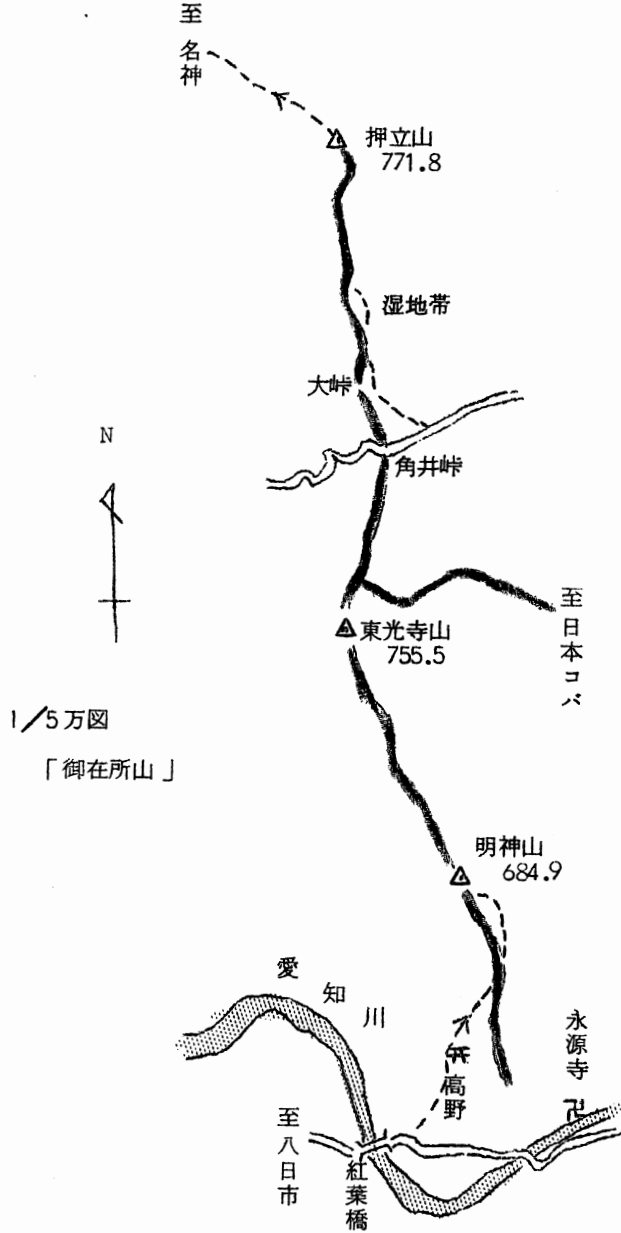
明神山々頂でゆっくり昼食を済せ、八幡城大神や八大龍王雨代明神社等の小さな祠のある尾根道を、東光寺山へと登った。山頂附近には送電線が2回線走っており、鉄塔や整備された巡視路があった。二等三角点で、御池岳の良い展望台である。特徴のある長い稜線が、藤原岳へと続く山容は美しい。巡視路を、日本コバへ続く郡界尾根と別れて、車道が越える角井峠へ下った。

角井峠から大峠への道を偵察して、はっきりしないまゝに谷沿いの道へ入ったが、ほどなく道は消えて、ブッシュの中を尾根へ登った。これからが大変であった。道もなく判然としない尾根で、湿地帯に下って登りなおしたり、茨に痛めつけられたり、朝からの疲労も重なって、ピークの登り下りがつらく膝部へ下るたびに、もうヤブこぎは止めて西へ下ろうと何度思ったことだろう。水筒のお茶も乏しかった。一口づつ、唇を濡す程度に飲んで登って行った。東光寺山がずいぶん遠くなった頃、やっと山頂についた。押立山△771.8である。

800 mに満たない山ではあったが、久しぶりに手強い単独行のヤブこぎであった。目的を達した喜びに、身も心も軽く、夕暮の道を西へと下った。名神を陸橋で渡り、田に水を入れていた農夫にバス停を尋ねたところ、「日が暮れて道に迷ったらあかん。バス停まで送ってやろう」と車に乗せてくれた。最後まで気持のよい山行であった。

5月7日 京都6.30一近江八幡7.12～7.24一八日市7.45～8.00一永源寺町紅葉橋北8.30～8.45…高野神社8.55…尾根9.30…明神山△684.9m 10.23～11.05…八幡城大神11.35…八大龍王明神11.40…東光寺山△755.5m 12.30～12.45…角井峠13.20…偵察13.25～13.40…尾根14.25…湿地帯15.00…尾根15.10…押立山△771.8m 16.55～17.10…車便乗18.40

一僧坊バス停 18.50 ~ 19.13
 一八日市 19.35 ~ 19.48 一
 近江八幡 20.03 ~ 20.10 一
 京都 21.00



依遅尾山と角突山から成相山

五 条 翠 峰

5月12日10.21の丹後2号で二条駅を出発、峰山で下車。丹海バス間人行に乗り清水で下車、右に折れ吉永へ行き途中ヒッチして矢畑へ。村奥の織機の家で道を尋ね、林道をつめる。登路は林道の終点から聞いていたのでどんづまり迄行ったが、はっきりした道らしいものは見当らず、岩石の崩積している急斜面を踏跡を辿って上ると道が右から来ているのに合してそれを辿って稜線に出ると笹原の草原に達した。山頂に行者を祀った石造の小祀や小社があり、その先に道端に二等三角点がありうっかりすると見落すような所であった。

山頂からの展望は一段と優れ、北に犬ヶ岬の海岸や丹後の田園や村々が一望出来、南に大鼓山始め重畳として丹後半島の山脈が見渡せる360°の大展望台であった。

下山は道を辿って下ると榎や柏や常緑の厚葉の木が沢山茂っている所を通って林道終点の少し手前のターン地点附近に下った。矢畑を通り吉永に出て清水からバスで峯山駅に行き、汽車を待つ間に夕食をとり、岩滝口で下車、バスがないので岩滝迄歩いて日交タクシーで奥波見へ行った。何処か公民館か春の一夜は野宿も又風流と思ってセーターや食料をプロパンやコッヘルと共に大キスに入れていたので附近の民家へ入って聞いたら、隣が区長で公民館の用をさせているとかで夜分突然の訪問を謝り、用を伝えると主人は訳を知り泊る丈方と一夜を泊めて頂いた。

角突山や附近の山々のことも、道も聞いたが、上世屋を中心として丹後半島縦貫林道工事が進められそれを利用する方がよからうとの助言を得た。主人は田村清一さんと云い、牛をかい、大型車の運転をしているとのことであった。

翌13日6時起床、朝食を御馳走にかり、厚くお礼を述べて角突山への分岐迄案内して頂いて分れた。墓場の前を左へ折れて良い道の急坂を登り切り小鳥のさえずりを聞き乍ら進むと道端に可愛い金蘭が咲いており、一ヶ所片栗も見られた。角突山の峠（下ると成谷）附近で孫を背負った老人と出合い、営林署の監視人をしているとのことで汐霧山迄は道がないから大変だと云って山菜をとっていた。

峠から急坂を登ると静かな林間の山頂に達した。三角点は黄色にぬられており三等だった。峠へ下り稜線の伐分けを辿って汐霧山へ向った。この稜線は地図で見たより寸度複雑で思ったよりむづかしい尾根であった。老人の云う隆軍省の花崗岩のあるピークに出て見ると谷間に向って広い伐開きが下っているので地図や地形と併せて見ておかしく思い、支尾根を下って見たが道がなく無理で、伐分けを下って谷に下りコルへ上って稜線に合してこの切開は汐霧山へ向っていることが判りこれを辿って谷を渡って又急斜面を登ったりして汐霧山と思しきピークに達し、その先で右へ折れ上世屋に向って下った。

支尾根を下って先端に出ると眼下に縦貫道路が走っている。下り道を探して研った崖を下り最後2 mは飛下りて林道へ。後は担々たる車道を木子の分岐を過ぎ、上世屋の駒倉への分岐へ着いた。この辻に立札があり、この下の溪谷の観音は成相山の奥の院で旧本山であり、又附近に名瀑があるとの由が書かれてあった。暫く休み上世屋の部落を眼下に望んで、駒倉への林道を下り、先で縦貫道の相成線に左折する。目指す丹後半島第二の高峰△679m鶴見岳の山麓を通して現在工事中であった。内山と鶴見岳の間を流れる世屋川の源流の橋を渡った所から廃田へ上り、谷沿いに上って左の山腹の崩雪の跡らしい所を登って登高を続けると尾根筋に出て切開きと合した。ピークを二つ三つ越すと樹林の中に三角点が黄色に染って埋っていた。これも三等で境界標柱番号289が立っていた。こゝで昼食の為プロパンで湯を沸し、食事後少憩をとり出発。

成相山の奥山にテレビ塔が立っているのが上世屋から見えただけで、それを目指して尾根筋を辿った。尾根が180°曲っているのだから近く見えるがなかなか近づかない。そのうち足がつっぱって痛みを感じたので己むなく山中で脚をもんだりして休み、足をいたわり乍ら歩き始めた。こんな事は滅多になく、使っても減らぬものと思っていたが我健脚も長年の使用に故障が出たものと見える。鶴見岳の真南のピークで尾根が二分しているが南へとり、支尾根を一旦谷に下り水を補給して斜面を上ると道と出会い新宮と畑との峠に出て二つ三つピークを越すと鼓岳と書いた標柱のある△569mにやっと着いた。すぐ南にテレビ塔のピーク、天の橋立を始め阿蘇海や宮津湾の半島や岬・入口の織りなす天然の美景に暫く吾を忘れて見晴らす。こゝからはっきりした道がついており、テレビ塔の下をまいてパラポラアンテナの立つ所に出て車道を下り相成寺へ。こゝは西国二十八番の札所で、願うこと成り合ひ寺のキチツチフレーズで参拝客を呼び、御詠歌に 波の音 松の響きも 成相の 風吹き渡す 天の橋立 があり、左甚五郎の竜が本堂の一隅にある。又展望台や立派な庭園もあり古利の名に恥じない。

今日は丹海バスがストップなので一の宮港迄、急坂の段を下って汽船に乗り、天の橋立駅に出て特急あさしおで二条駅に帰った。本回で丹後の主な山は一通り終り、残りは500 m以上は教座となった。

コース・タイム 5/2 10.21 二条駅 13.28~14.14 清水 15.03 矢畑 15.35~15.40 林道終点 16.15~16.27 依遅ヶ尾山 17.53~17.58 清水 18.25~18.51 峯山駅 19.30~20.05 岩滝口~岩滝 20.40 奥波見(泊) 5/13 6.20 出発 7.22~7.25 角突山 8.00~8.20 陸軍省の碑のあるピーク 8.46~8.50 汐霧山 10.00~10.10 上世屋 11.35~12.00 △679m 12.30~40 休 13.23~30 休 14.40~14.45 谷川 15.18~15.27 鼓ヶ岳 16.00~16.10 成相山 16.50~17.10 一の宮港 17.22~17.41 天の橋立駅 19.51 二条駅

例会報告

例会№	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1036	日本コバ △934.2	4月26日	晴	横大路 田中 忠久	名誉部員 牧 定夫氏	永源寺町政所から登る。鈴鹿主稜の展望台のような尾根路から、△北側の水苔の豊富な湿地帯を経て山頂に達した。登路としては藤川谷（△東側の谷）から湿地帯を経て登る方がおもしろいかもしれない。下山路はシキロ谷（△西側の谷）を下る。最初は明るく美しい谷を快適に下ったが、本谷出合の少し手前で、20m程の滝に遭遇し少々手こづった。本谷に入ってから道は無く、谷筋を下ったが、またまた20m程の二筋の滝が有って、これを下降するのにも一苦労させられた。谷を下る場合のザイルの準備の必要性を痛感した。二筋の滝の下からは、よく整備された道が有り、国民宿舎もみじ荘へ通じていた。もみじ荘の手前にも、四段程になった立派な滝が道から見下ろせた。シキロノ滝と云うのがこれらしい。もみじ荘で、今日の登山の無事を感謝して、鱒を魚にビールで乾杯する。天候に恵ぐまれ、御退職後ますますお元気を牧さんに同行していただき、たいへん楽しい登山が出来ました。
<p>京都6.30—近江八幡7.12～7.24—八日市7.45～8.00永源寺8.35～8.40—政所9.05～9.25…尾根9.40…湿地帯11.30～11.50休憩…日本コバ山頂12.15～12.55昼食…20mの滝14.10～14.25…滝見物14.25～14.40…本谷14.45…二筋の滝15.30…滝の下の道15.45…国民宿舎もみじ荘15.55～17.10（車便乗）—永源寺17.20～17.40—八日市18.10～18.16—近江八幡18.35～19.07—京都19.55 1/5万図「御在所山」</p> <p>近江鉄道バス 近江八幡営業所 TEL 07483-2-3231 なお、永源寺行バスには名神 八日市営業所 TEL 07482-2-2214 八日市バス停からも乗車出来る。</p>						
1037	押立山 東光寺山 明神山	5月7日	晴	横大路 田中 忠久		別稿報告
1038	依遅尾ヶ山 と角突山	5月12日 ～13日		五条 坂井 久光		別稿報告
1039	屏風山と 左門岳	5月17日 ～18日	雨 の ち 晴	横大路 岡本 義弘	牧 定夫氏 上島 和彦 田中 忠久 三橋 勉 西井 巖	17日朝、出発が遅くなって左門岳には登れなかったが、18日天候に恵まれて、ヤブをこぎ、雪溪を踏んで、きわめて快適に屏風山に登って来た。詳細吹身報告

部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
大文字山	4月 2日	晴	畑 照人	いつものおきまりコースである。中心点から錦林車庫前へ下山。哲学の小径にある大豊神社の梅と椿とを見て帰る。この社の後山は椿ヶ峰とって昔から椿の名所である。梅も今年は花が余り立派でなかったらしい。
大文字山	4月19日	晴	畑 照人	三角点から池の谷地藏へ詣ってから引返して山科側へ下ることにする。紙屑も少なくて気持ちよい。鶯がまるで鳴き比べ大会の様によくさえずっている。ハッパの音らしいと思っていたら山科射専場の銃声である。山科比沙門天へ参拝して瑞光院（赤穂浪士ゆかりの寺）を見て山科駅国鉄でかえった。

雑 報

▲山とスキーのリバイバル映画大会

日 時	6月26日(木)	18.00 開場	作品	谷川岳奥壁をよじる
場 所	京都府立勤労会館			立山剣沢の夏スキー
主 催	京都府山岳連盟			絶険北鎌尾根
前 売 券	¥ 300 (各支部委員まで)			春光八甲田山 他

▲5月集会報告

5月19日 下鴨寮

出席者 名誉部員 牧 定夫氏

横 大 路 田中、岡本、山田

錦 林 大槻、武田 6名

岡本君や山田君から、今年もぜひ夏山(R・C)をやりたいと云う強い希望もあり、以前より大槻君が提案していた谷川岳について話し合った。日時は例年通り8月上旬または7月下旬の予定。

他に、6月例会(金蔵岳他)、集会(6/18)の打合せを行う。

岡本君より岳連報告 写真展(5/29~6/3 高島屋)他 以上

ダイバー仲間のプロショップ

- 取扱品 ● スキューバアホロ京都秘登先元
 ● ホイト(※) タコ(※) クレシーサブ(伊)
 マリン(仏) ブッシャーサブ(仏) NDS(日)
 キヌ川(日) スキューバフロ(※) 代理店
- 講習会 ● 現役プロダイバーによる安全確実な
 アクアラック指導

ダイビングプロショップ

〒603

エリート

京都市北区堀川通北大路の上ル東側


TEL 075(492)8450

PRO SHOP

山とスキーチロル

輸入品とオリジナルの店

AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
 定休日 月曜日 (221)6186

 まかせて下さい...ネ

山とスキー

のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています
 ☆山の道具は"ゼヒ"御相談下さい
 ☆友の会会員募集中(毎月1000円)

山とスキーの専門店

ホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
 烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

昭和50年 6月 1日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内 京交山岳部

オールスキー・山用品

大量入荷!!

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下。大宮松原上ル
TEL 301-1331

みんな知っている
古くからの厚生会特約店
野球用具 硬式・軟式専門店

ゴルフ初心者向クラブ沢山
あります 特に偶数クラブOK
以上の商品なんでもOK
購買証御利用下さい
月賦可電話にて御注文下さい

KK西沢スポーツ

中。釜座御池下
(221) 5739

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 301-5331 代

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-754 代-4



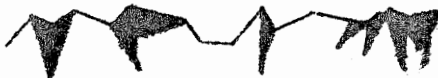
この用具の事ならココが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー
そして海の レジャースポーツショップ



中。二条通河原町西 TEL 231-1202



真の専門店として
京都山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を
確信ある価格で……

京都山荘

河原町六角下ル東入ル
TEL 241-1731